

在宅診療医の立場から

玉井クリニック

玉井 良尚

第13回堺市における在宅医療ネットワーク講演会

2025年3月8日

「心肺蘇生をしない意思表示」を共有する
ことが救急医療を変えるのか

ACP（人生会議）の大切さを共有するために

私のしていること



私の場合の ACP

- 通院の方：普段の会話から、さりげなく。
- 個人宅の方：普段の会話から、なんとなく。
家族さんには会った時にするかな。
電話で相談することが多くなった。
- 施設の方：上と同じ。施設の方とも相談しながら。

自分なりに、いいなと思っていた点

- 本音を聞き出そうと真摯に向き合っている。
- 怖がらせないように、柔らかく。
- 家族さんとも話をしながら。
- ケアマネージャーさん、訪問看護師さん、ヘルパーさん、施設の方などと情報共有しつつ。

終末期を迎えるにあたって

- あなたのしていることは間違いではないです。
- 正しいです。
- うまく食べさせてあげられない。痩せていく、弱っていくのは、自分に責任がある。
- もっと、本当はすべきことがあるかもしれない。
- こんなに水分も摂れないなら、点滴をしなきゃいけない。

終末期を迎えるにあたって

- 誰かが常にそばにいたくちやいけない。
- 家族さんは、常に見守らなくちやいけない。
- 自分が訪問したときに呼吸をしていなかったら。

問題あり？

- 全て書面にせず。
- みんなと情報共有をしているつもり。
- 患者さんは、ACPを、意思表示をしたと考えていないのでは??
- 私の独りよがり??

問題あり？

- 私の思う ACP と、病院、救急が必要
としているものは違う？
- ACP ? POLST ?

結論

- 書面にしてみようかな。
- ひな形をください。